

院内の安全を守っています

当院は外来や入院の患者様とその御家族の皆さんをはじめとして、職員、納品業者その他医療関係者等、毎日大勢の利用者が往來します。しかし、残念ながら不審者、泥酔して大声を出す方や、脅迫や暴力をふるう方が来院する場合があります。そうしたことで、他の利用者の方が怖い思いをされたり、何かしらの被害にあわれるおそれがあるのはもちろん、対応する職員も本来の診療業務の遂行に支障をきたす場合があります。

当院では、利用者の皆さんの安全の確保と心の平穩を守るため、平成26年度から院内保安員を24時間体制で配置しています。

院内を巡回して不審な様子がないか日々警戒し、トラブルがあれば急ぎ駆けつけ、事件や事故の場合は警備員や駆けつけた警察官とともに初動の対応を行うのが保安員の役割です。

時にはその身を挺して行動することもあり、昨年8月には1階で刃物を隠し持った者を現行犯逮捕し、新聞でも取り上げられました。

このように利用者の皆さんの安全安心を守るため日々活動している院内保安員ですが、道案内や落し物等困りごと、その他どんな些細な相談にも対応するのが私たちの役割です。お気軽にお声かけください。よろしくお祈りします。



かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine

Kagayaki

No.36
平成30年9月

編集・発行
広島市立広島市民病院
〒730-8518 広島市中区基町7番33号
TEL.082-221-2291 FAX.082-223-5514
http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp/

すべては 患者さんのために —入院支援室を拡大しました—

広島市立広島市民病院 南波 玉喜
副院長（看護部長）

当院では平成27年8月に「入院支援室」を開設しました。これには経営効率の向上や医師・看護師の負担軽減を図る目的もありますが、何よりも患者さんに治療を受けていただく上での安全性の確保が最大の目的です。この目的を達成することで患者さんが安心され満足度向上に繋がると考えています。

入院支援室には看護師（師長1名、主任1名含む）9名、歯科医師（兼任）2名、歯科衛生士（兼任）3名、薬剤師（専任）1名、事務員3名を配置し、患者さん一人に1時間の予約枠を設けて、個室環境でゆっくりお話を伺います。

病歴聴取以外に全身麻酔患者さん対象に院外かかりつけ歯科医院・協力歯科医療機関へ術前口腔ケアを依頼します。当院では年間約1万件弱の手術が行われます。そのうち約6割が全身麻酔であり、挿管時の動揺歯や歯周病の未治療は術中、術後のリスクに繋がります。平成29年11月末までに4691人の患者さんを連携していただきました。また薬剤師による持参薬・中止薬のチェックと指導により、必要時には院内外の担当医に疑義照会や保険薬局への問い合わせも行います。さらに一部の患者さんではありますが、手術室看護師による術前オリエンテーションを実施しています。

開設当初は6ブース、3診療科の介入から開始した入院支援室ですが、その後14診療科の経路が可能となり、全予定入院患者の56%を占めるまでになりました。そして平成30年2月に16ブースまでの拡大工事を終了しました。このように周術期リスク管理を含め、入院前患者さんの支援を中央化し、多職種で活用できるスペースを確



保したことで、現在では全診療科の経路が可能となりました。今後は現スタッフに加えて麻酔医や管理栄養士、緩和や化学療法、認知症ケア認定看護師など専門分野の介入を増やし、患者さんの安全性確保の強化に取り組みます。そして同時に、入院前から退院後の生活を見据えた地域包括ケアシステム推進のために、入退院支援の要としてMSWの配置も欠かせません。

当院は平均病床稼働率95%以上で運用しています。これはひとえに、当院が提供する医療、看護にご信頼を寄せていただく地域住民の皆様や、患者さんをご紹介下さる先生方のおかげです。ご期待に応えることが出来るよう、拡大した入院支援室を充実させていきたいと考えています。

病院長はよく「謙虚」や「感謝」という言葉を用いられます。これは、

「医療者として奢ることなく、すべては患者さんのために成すべきことをしなさい。」

という意味であると、私たち職員は胸に刻んでいます。

今後も地域における高度急性期病院としての役割を果たしていただけるよう、日々努力してまいりますので、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

～基本理念実現のための3つの柱～

1. チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
2. 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
3. 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成に努めます。

患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのため、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。

外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※眼科/火・木曜日
午前10時00分まで
診療科によっては休診日がありますので事前にご確認ください。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日
年末年始(12月29日～1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか医科5,400円、歯科3,240円(H28年8月から)のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

New

腫瘍内科・通院治療センター

「腫瘍内科」は、がんに対する薬物療法を専門に実施する科です。2000年を境に、従来の殺細胞性抗がん剤に加えて、多くの分子標的薬が臨床現場で使用されるようになってきました。分子標的薬とは、標的となるがん細胞の特定分子に結合して効率よく抗腫瘍効果を発揮する薬剤です。こうした薬剤は一概に毒性が少ないとはいえませんが、有効な治療手段となりつつあり、従来のがんの治療薬が正常細胞にも同じようにダメージを与えるのと比べると、患者さんの身体的負担が少なくてすむとされています。



また分子標的薬は、従来の殺細胞性抗がん剤とは副作用の種類が異なり、単剤のみならず併用による治療効果の上乗せが期待できることも多いため、近年いろいろながんに対し広く使用されるようになってきています。しかし毎年多くの新規薬剤が発売されるなかでエビデンスに基づいてそれらの薬を使い分けること、またをそれぞれに特徴的かつ複雑な副作用をきちんと管理していくことはそれほど簡単ではありません。そのためがん薬物治療に特化し、その効果や副作用に精通し、臓器横断的ながん治療を行う腫瘍内科医の役割は、ここ近年非常に大きくなっています。

当科では腫瘍内科の医師に加え、がん薬物治療について専門的な研修を受け、資格を取得した薬剤師、看護師、栄養士とともに多職種間のチームを編成しています。肺がん、消化器がん、乳がんなどいろいろながんの化学療法を、臓器別専門医（主科）の先生方と連携しながら診療にあたることを通じて、私たち腫瘍内科医および多職種によるチームは日々の診療の中で、がん患者さんの治療成績の向上と有害事象の軽減に寄与できることを願っています。

また希少がんや原発不明がんなど、その臓器の専門医であっても経験する機会が少なかったり、標準治療が定まっていなかったりするがんの患者さんもおられます。私たちはそうしたがんの患者さんに対し、現時点での診療ガイドラインを遵守しつつ、多施設共同研究や治験への参加を通じて、新たな治療方法の開発にも積極的に取り組んでいます。

通院治療センターでは、主に外来通院で化学療法を受けておられる患者さんに対して、外来抗がん剤投与と療養環境の支援を行っています。当院の通院治療センターには電動ベッド4床、電動リクライニングチェア12床を整備しています。治療スケジュール（レジメン）によっては長時間ベッドに拘束されてしまうことから、点滴中でもできるだけ快適な環境を整え、患者さんの苦痛を和らげられるよう心がけていますが、ここ数年外来化学療法の件数が飛躍的に増加をしております（図1）、日によっては患者さんを長くお待たせしてしまう状況が生じています。できるだけお待たせせずすむように、私たちも日々工夫を重ねていますが、治療時間や薬剤の内容によっては予約時間に関係なく順番が前後することもありますので、ご理解をいただければありがたいです。

なお通院治療センターでは、がん薬物療法に伴う合併症や身体的な副作用のみでなく、がん治療に伴ういろいろな身体的・精神的苦痛、生活指導、地域医療機関に関する情報提供や終末期治療などに対する相談も受け付けており、患者さんのご希望を確認したうえで、改めて院内の専門科や医療専門職へ紹介することも可能です。外来治療中に気になっていること、困っていること、つらく感じていることがありましたら気軽に相談してください。

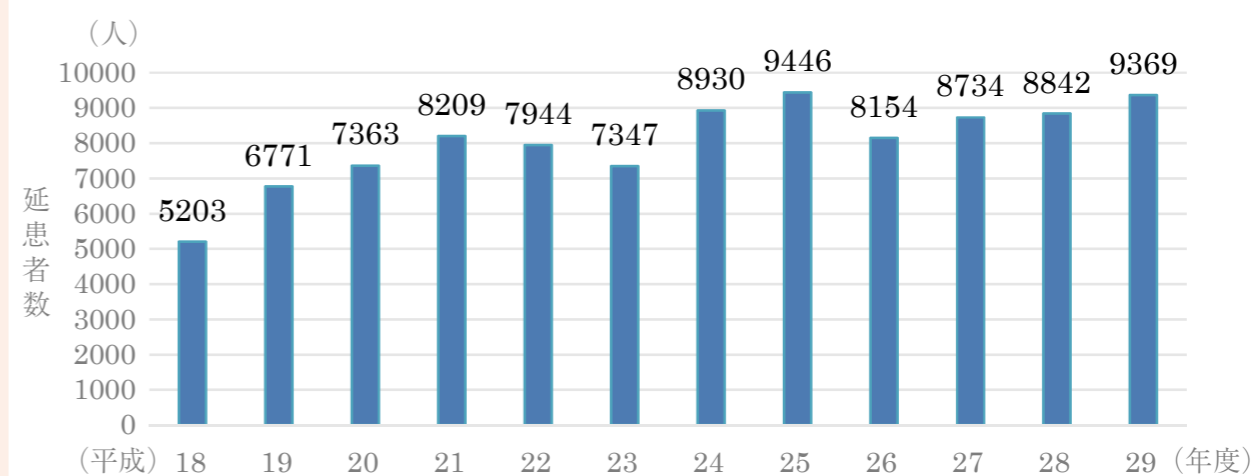


図1 年度別患者数

